

# くらし塾

## 過去を知り「今」考える契機に

■「京都の歴史を歩く」著者 高木博志京都大教授と訪ねる

桜をめぐる季節はもうすぐ。京都御苑(京都市上京区)に花見に訪れる人も多いでしょう。江戸時代や明治初期の御所には今とは違う風景や営みがあったでしょう。歴史を知れば、普段と違う御苑散策を楽しめよう。「京都の歴史を歩く」(岩波新書)の著者の一人で、京都大人文科学研究科教授の高木博志さんと御苑を歩いてみました。(吉水周平)

江戸時代、京都観光の目玉は禁裏御所と公家町を巡ることでした。中でも、御所の公卿門前で、参内する公家を見物するのが一番の人気があったそうです。暮末の地図「掌中雲上抜錦」を見ると江戸時代の御所の様子が分かる。御苑は200もの公家屋敷が並ぶ公家町だった。外郭の通り沿いに今の石畳はななく、公家町は京都の町に続いて、町民らは茶屋で酒肴を味わい、参内する公家の異形の行装を楽しんだ。金を払えば御所で天皇即位式や行事も見物できた。江戸前期の明正天皇即位式の屏風は、酒を酌み交わす人々の屋敷の築地塀が美観をつけていた。「外側を囲って威厳を持たせるのでなく、人が歩く場をきれいに整備する発想でした」。公卿門の近くに茶屋があったという。江戸時代には「繪垣茶屋」が立ち、明治時代まで続いた。町民らは茶屋で酒肴を味わい、参内する公家の異形の行装を楽しんだ。金を払えば御所で天皇即位式や行事も見物できた。江戸前期の明正天皇即位式の屏風は、酒を酌み交わす人々の



「掌中雲上抜錦」に現れる暮末の御所と公家町。大線の箇所が築地塀。公家町が京都の町に続いていて、道沿いに築地塀があったことが分かる。高木博志さん著「近代天皇制と京都」所収

九条邸跡に残る高倉橋に立つ高木さん。周辺では明治時代の京都博覧会で料理屋や茶店が開かれた



や、おおらかに胸をはたけて授乳する女性が描かれている。高木さんによると、天皇の前で芸能を納める陰陽師や猿回しは「賤視」されながらも、特殊な力を持つ者として畏怖された。1869年の東京遷都で公家が東京に移住後、公家町跡に「公園」として整備されたのが御苑だ。遷都後の十数年は府が御苑を管轄した。石油灯がともし、画学校や博物館が置かれるなど、御苑は円山公園と並ぶ文明開化の地だった。1873年から、



近衛邸跡の糸桜



「大礼の場」に転換する。大正天皇の即位式「大正太礼」(1915年)のために建礼門前の通りを拡幅、ウメ、モミなど2千本以上を植栽し、鴨川で採取した砂利を敷きつめ、今の「荘厳な」景観が完成したという。「日露戦争後の帝国日本を象徴する儀式が大正太礼。欧米の一等園に肩を並べるために、欧米やアジア諸国とは異なる日本らしさと京都らしさを発信する都市として古都を新たに位置づける国家構想の下、御所はナショナルなイメージに重ねられていきました」。

### 人々に開かれた場所、文明開化の地

「歴史学者の網野善彦が唱えた王権と『賤民』の不可分の構造が、東遷遷都までの御所にはあったと考えるでしょう」。大正天皇の即位式「大正太礼」(1915年)のために建礼門前の通りを拡幅、ウメ、モミなど2千本以上を植栽し、鴨川で採取した砂利を敷きつめ、今の「荘厳な」景観が完成したという。「日露戦争後の帝国日本を象徴する儀式が大正太礼。欧米の一等園に肩を並べるために、欧米やアジア諸国とは異なる日本らしさと京都らしさを発信する都市として古都を新たに位置づける国家構想の下、御所はナショナルなイメージに重ねられていきました」。

### 歴史掘り起こし伝える

「京都の歴史を歩く」の著者は、高木さんと、同志社大教授小林久さん、立命館大准教授三枝勝子さん。3人の歴史学者が共通するのは、観光ブームと一体化して朝廷・貴族や豊かな町人、寺社といった上層の文化に特化する歴史への違和感であり、「今日の観光言説や京都イメージは近代につくられた部分が多い」「特上層文化に特化の京都論に違和感。権化された京都論でなく、日本史の全体像や地域史の中でどう考えるべき」という視点だ。中世のハンセン病患者と清水寺参詣路との関わり、内国勸業博覧会開催に伴う京都市左京区岡崎地域の開発、性を隠蔽した「もてなしの文化」論とは異なる遊歴史、被差別部落の歴史を掘り起こし、これらを今に伝える場の一環として「場」を巡らざる。677円。

### ふたこと みこと

京都の書店では、「京都の歴史を歩く」のほかに、井上章一国際日本文化研究センター教授の「京都ざらい」がベストセラーになりました。「観光都市」や「雅びな文化」とは別の視点で京都を見つめる空気があり、京都賞美や名所案内ではない「京都本」が売れているのではないのでしょうか。当たり前ですが、「世界一」を冠せられる観光都市にも生活者の営みは脈々と流れている。長く都が置かれ、文化が花開いた都市だから、その裏側、も強烈に浮かび上がる。何かと観光がクローズアップされますが、辛口の歴史を知った上で京都を歩くと、この街の今を考える際にも良い機会を与えてくれると思いました。(周)

### 京都御苑の歴史を散策

### くらし塾

### 体験・体感